

平成28年度は「健康サポート薬局・かかりつけ薬剤師」の申請があり、かかりつけ薬剤師の基準に認定薬剤師証機構等の研修認定を取得していることが必須となったため、小論文の投稿数は多数あった。非常に優秀な小論文が多かった。受講生の興味度は、胃薬・ステロイド、加齢に伴う身体の変化(1)、下痢・便秘が上位を占めていたが、投稿数が最も多かったのは腎不全の58件で、評価の平均は81点であった。以下、図のとおりである。

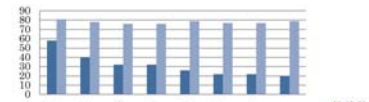


図1.平成28年度小論文投稿数及び平均点

取り上げられたテーマとして、各疾病の早期発見の重要性・予防に関連した生活・服薬指導、特に加齢に伴う身体の変化(1)では、高齢化による消化器障害、フレイル予防、栄養サポート、嚥下・口腔内ケア等があった。願わくは、座学より通信教育で得た知識や日常業務の中で、“何故?”という疑問符を持って、多方向から考えてみる習慣を身につけ、小論文を作成することにより「まとめる力」及び「データを読み取る力」の積み重ねの努力が、地道であるがEBMに基づく正確な情報を共有し発表でき、全国ネットワークで活動できるような真の認定薬剤師になれる近道と考えている。

市場 みすゞ

症候別アプローチ

2006年調剤を実施する薬局が医療提供施設と医療法改正により明記され、医療提供の理念が示された。それを受けて2014年1月厚生労働省から「薬局の求められる機能とあるべき姿」が公表された。その中に、薬局は調剤を中心とした医薬品や医療・衛生材料提供にとどまらず、薬物療法に併せて後発医薬品使用促進や残薬解消といった医療費適正化が求められた。さらに、薬局も積極的に発症でき、全国ネットワーク推進のための健康情報拠点と位置付けられ、地域包括ケアシステムの一翼を担うこととなった。

今まで調剤を主とする薬局の薬剤師は、処方解析を得意として薬剤から病態、疾患を推測することは慣れていた。しかし、薬局の店頭で短い会話の中で聴き取った患者の背景から、トリアージを行い、一般薬の販売か、受診勧奨かの確かな判断は症候学を学んでない多くの薬剤師にとって、とっさの対応に苦慮するものであった。2016年に「患者のための薬局ビジョン」その翌年は「健康サポート制度」が告示されたが、それ以前より、日本女性薬剤師会はチーム医療という視点からも、症候別アプローチ方法について理解することは重要な意味を持っていると考えた。聖マリアンナ大学臨床検査学講座教授岡雄彦先生に薬剤師継続学習通信講座の「症候別アプローチ」として、3年間にわたり、ご執筆いただいた。今回そのシリーズをコンパクトにまとめたものである。

薬局の多忙な業務の中で、早く適切な判断が求められている時、いつも身近にある(白衣のポケットに入っている)「症候別アプローチ」が服薬指導の座右の書として利用していたら業務の手助けにもなることと思う。「症候別アプローチ」: 定価1,200円、A6版、重量約100g 本文90頁、用語解説37頁



(平成29年度社員総会承認)

1. 女性薬剤師の立場からの「かかりつけ薬局・薬剤師のあり方」の検討

①政策的に、かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師の急がれている中で、薬剤師個人に係る負担と責任に関して、ワークライフバランスの視点から現状を探り、課題を提案する。
②地域における薬局の役割を住民に周知し、かかりつけ薬局・薬剤師を普及する方策として、現状での来局者個人をターゲットにするだけではなく、集団に働きかける方法を検討する。

2. 「安全・安心な医療」の提供の方策

①会員に対する研修会などにおいて、座学のみならず、実習、演習を含めた理解しやすい、実践可能な方法を検討する。(薬剤師への確実な知識の導入)
②日常生活で使用されている食品、健康食品、サプリメント、使用薬剤の間の相互作用に関して化学的な成分を確認し、負の影響が出る組み合わせのリストを作る。

3. AMR (Antimicrobial resistance) 対策の普及

世界的に増加しているAMRに関し、日本でもAMR対策アクションプランを2016年に作成して、対策の普及に努めている。その一環としても、地域の薬局が抗菌薬の使用に関して注目する必要がある。

創立50周年記念祝賀会を終えて

6月24日ホテル雅叙園目黒で、全国の会員参加と来賓併せて139名で開催した。会長が就任以来、人脈が大事としてこれた各業界よりの来賓多数のご出席をいただき、すべての方から日女薬へのメールを頂いた。会員と来賓との交流・懇話も時を忘れるばかりに盛り上がり、コンパクトながら素晴らしい会であったとの評を得た。オープニングで斉唱した「日本女性薬剤師会の歌」(昭和57年作)は、薬剤師が進むべき道が歌詞に込められており、日女薬の財産で大切に受け継いでいきたい。日女薬創立50周年の節目から、51年への歩みに、日本女性薬剤師会を内外に理解・交流を深める記念すべき祝賀会であった。

総務担当 渡部シズキ



平成30年3月1日発行 編集発行人: 近藤芳子
発行: 一般社団法人 日本女性薬剤師会
東京都墨田区太サ 3-1-1 坂部ビル2階 TEL 03-3621-0489 MAIL:jwpa@eth.biglobe.ne.jp www.jzyaku.org

あさか



一般社団法人日本女性薬剤師会 近藤 由利子

1966年に故秋島前会長をはじめ、諸先輩方のご尽力により誕生した日本女性薬剤師会が50年の歴史を刻んでまいりました。関係者のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。昨年、節目として50周年史を上梓いたしました。これを受けて、12月15日の業界日報の社説で本会のことが掲載され会員諸師とともに嬉しく思いました。50年史編纂の中で、任意団体から一般社団法人化への苦勞が思い出されたこと、加えて有能な弁護士・司法書士の専門的知識を頂き取得することができたことです。今、51年目に向けて、大事な事業を継承することはもとより、新たなあ

ゆみを始めています。急激な変化(医薬品関連)に対応する能力を研鑽し、情報共有し、職能の向上に専念していきたいと思えます。地域包括ケアシステムの構築の中で、薬剤師に大きな役割が与えられており、女性薬剤師の立場から「かかりつけ薬剤師・薬局」の役割を住民に周知する事業、健康課題を考えることは、本会にとって重要な新規課題と考えています。一方で多くの専門職との連携をかくことができません。

また、「安心・安全な医療」を国民に届ける為に薬学的並びに関係領域知識を補填するための研修会も女性薬剤師の視点で引き続き企画して参りたいと思えます。このような事業を執行しながら、次世代担人材の育成に取り組んでいく所存です。都道府県女性薬剤師会の各々が、本会の理念の下にその地域の特徴に応じた住民の健康保持・増進を志向し、今年度も活発に活動されることを期待いたします。

学術講演会 性の健康を考える ー 未来世代を守るためにー

最近の医療行政について
厚生労働省 大臣官房審議官 森和彦 先生
性の健康ー避妊とOC (Oral Contraceptives) の現状と薬剤師への期待ー
社会福祉法人慰労財団母子愛育会総合保健センター院長 安達由紀先生
性感感染症の美態と治療ー梅毒の再流行とSTI 蔓延に対する取り組みー
葛飾赤十字病院副院長 産婦人科 鈴木俊治先生
展 示 : 「今、製薬会社が女性をきかれています!」
ー製薬会社による化粧品ー」
ポスター発表: 『ポスターで広げよう 女性薬剤師会のネットワーク』

日時: 平成30年6月24日(日) 開場9:15 講演開始10:00
参加費: 7,000円 薬学生無料(要学生証・テキスト代別途1,620円税込)
(6/1以降の申し込みは8,000円となります)
会場: 国際ファッションセンター (KFCビル)3F 東京都墨田区横綱1-6-1
対象: 全国の薬剤師・薬学生 取得単位: 日本女性薬剤師会認定単位 (G16)4単位
主催: 一般社団法人日本女性薬剤師会
後援: 公益社団法人日本薬剤師会 一般社団法人日本病院薬剤師会
申込方法: 会員・各県女薬まで 非会員: 当会事務局まで 03-3621-0489



並木美穂子先生(73歳)埼玉県

平成4年入会し、会員歴は25年になり、平成10年度より埼玉県女性薬剤師会副会長を務め、大宮市支部支部長も兼務し現在に至っている。日本女性薬剤師会主催の研修会には参加し、研修内容の伝達をはじめ、学習成果を高めた。また会員増強にも努めている。一貫して埼玉県女性薬剤師会の学術担当として、通信教育講座を一手に受け、普及に力を注ぎ、講師への交渉、資料作成など埼玉県女性薬剤師会の柱であり、功績は多大である。平成9年~平成12年には、埼玉県薬剤師会大宮支部 大宮薬剤師会理事、埼玉県薬部会部長として 医薬分業推進事業に協力、保険薬局会員に向けて学術研修会企画及び実施等、地域薬剤師会活動にも協力、貢献している。平成13~20年には、埼玉市薬剤師会常任理事学術委員会委員長として、処方箋応需の対応研修会を定期的に企画実施してきた。学校薬剤師として、薬物乱用防止活動にも努めてきた。



永山登紀子先生(72歳)愛媛県

昭和43年大学卒業後、病院勤務と同時に女性薬剤師会へ入会し、会員歴49年になる。昭和52年より永年に亘り継続して、愛媛県女性薬剤師会理事・庶務担当理事・副会長、監事を務め現在に至り、会の運営・研修企画等で前会長・現会長を支えて中心的役割を果たしてきた。庶務担当理事を務めていた時には、愛媛県女性薬剤師会誌「たちばな」の「30年・35年・40年のあゆみ」3誌の編纂を中心になって行った。「第10回日本女性薬剤師会移動セミナーin愛媛」開催にあたっては、副会長の立場で、会長・理事と協力して、企画運営に大いに貢献し盛会に導いた。

病院薬剤師一筋の仕事を通して、住民の保健衛生に力を注ぐと共に、本県女性薬剤師会及び県薬剤師会役員の高責を務め、多大の功績により、厚生労働大臣表彰や各種表彰を受賞している。今後も一層、女性薬剤師会活動に尽力したいだけである。



研修会開催報告

平成29活動報告



埼玉県女性薬剤師会では、年2回フィジカルアセスメントの講習会を行っています。これは、日女薬での研修会がきっかけで、毎年ベンシクコースとその上のアドバンスコースを開催、5年目になりました。

ベンシクコースは医師の立ち合いの下、すでに学んだ会員によるフィジカルアセスメントの意義と実技(血圧 脈拍 呼吸 瞳孔 SpO2)測定の基本的講習会となります。ベンシクを終えた方が次のアドバンスコースに参加できます。

今年度は平成29年12月24日クリスマスイブの日曜日、さいたま新都心の埼玉県地域

医療教育センターでアドバンスコースの講習会を開催しました。このセンターは5月にオープンしたばかりで、県内に勤務している医療従事者の教育研修施設です。各種シミュレーターを用いたモニターを確認、仮想病室、診察室があり、研修を行うことができます。10:30～16:00、講師は城西大学薬学部准教授 大嶋繁生先生、同じく准教授 井上直子先生です。

午前中はセンターの見学の後大嶋先生による心音、呼吸音についての講義とフィジコラングを用いたの心音・肺音の聴診。正常音・異常音の聴き取り。受講者26名全員が聴診器をシミュレーターに当て、確認。大嶋先生、井上先生から指導を受けました。

午後からは実技実習。模擬患者にたいしてのフィジカルアセスメントです。

症例は2つ。1つは来局患者評価及び情報提供書作成。患者役、薬剤師、見守に分かれ、3交代実施。

もう1つは在宅患者に対するフィジカルアセスメントです。

参加者の終了後のアンケートは好評で、多職種への繋ぎかた、きずきがありました。など薬剤師として役割を再構築した研修会となりました。

2018

16th

第16回日本女性薬剤師会全国移動セミナーin新潟

～保健・医療・福祉の架け橋になろうとして在宅医療・在宅介護への対応～

今回開催いたします日本女性薬剤師会全国移動セミナーは、毎年東京で開催されています「日本女性薬剤師会学術講演会」とはその趣を異にして、毎回地方開催として各地域が独自の課題を取り上げてその内容を全国の会員と共に、併せて地域の女性薬剤師会活動の活性化を図ることを目的として、平成15年から開催されています。

私たちは今回の新潟県での開催にあたり、「フレイルは多職種で防ぐ～摂食・嚥下障害と低栄養を薬学的アプローチから考える～」を統一テーマとしました。そして、セミナーを通じて、今後の医療や介護等について薬剤師がどのように向き合っていくかについて、参加者と共に考える場をさせていただきたいと考えております。



第16回日本女性薬剤師会全国移動セミナーin新潟 実行委員長 成澤 千鶴子

会期：平成30年11月3日(土)4日(日)会場：ホテル 華風 新潟県新潟市月岡温泉 134番地 TEL: 0254-32-1515	11月3日(土) エクスカーション(大会前日) 13:30～出発 今代町酒造 ～北方文化博物館～華風
目的：保健・医療・福祉の架け橋として、また在宅医療・在宅介護への対応ができる薬剤師の育成を目的として摂食・嚥下障害・低栄養を医師・栄養士・歯科医師・薬剤師によるシンポジウムおよび特別講演(ワークショップ)を予定。また、展示ブースでの服薬支援、在宅関連グッズの紹介も予定。参加人数：120人予定	11月3日(土) 夕食交流会(大会前日) 18:00～華風に交流会 11月4日(日) 第16回日本女性薬剤師会 全国移動セミナー ～開会式 シンポジウム：「フレイルは多職種で防ぐ！ 9:00～摂食と低栄養を薬学的アプローチから考える～」 昼食 特別講演(ワークショップ) 15:00閉会式

在宅医療でも活躍できる薬剤師を目指します！！

平成30年度 薬剤師継続学習通信教育講座

『患者のための薬局ビジョン』が、厚生労働省から公表され、『健康サポート機能』を有する「かかりつけ薬剤師・薬局」が求められています。『服薬情報一元化・継続的把握』『24時間対応・在宅対応』『医療機関等との連携』など薬剤師に期待されていることが明確になっています。しかし、考えを変えれば、薬剤師として最も基本的な「調剤・医薬品の供給その他の業務事項をつかさどる」という薬剤師法第1条を『国民のために行う』という当身の仕事です。そのために、必要なスキルを激動的な医療の進展に合わせ、学んでいくために、本通信教育講座の受講をお勧めします。

シリーズ1 認知症を中心に考える在宅医療	シリーズ2 くすりの使い方
学習スケジュール 4月開講 1年間で8冊を学習 ※発送日は目安です	
第1回 婦人：ビル 正しく理解・正しく服用	
第2回 がん：食道がん 食べること	
第3回 糖尿病性腎症 腎障害時の薬物療法と栄養	
第4回 統合失調症 副作用に対する患者指導	
第5回 小児：小児の在宅医療 現状と問題点	
第6回 くも膜下出血 前兆を見逃すな！	
第7回 肥満症 肥満と11の関連疾患	
第8回 高齢者：加齢に伴う身体の変化(3) 呼吸器系	

第15回 移動セミナー

★★★★★★★★★★★★

Move seminars

第15回 日本女性薬剤師会全国移動セミナーin福島

保健・医療・福祉の架け橋になろう、そして在宅医療・在宅介護への対応～多職種との連携による地域包括ケア体制の中で地域医療提供施設としての役割～

『ほんとうの空は、自らの手で！』～震災から医療・介護のあり方を学ぶ～

開催日時：平成 29年 9月 17日(日) 10:00～16:40
場 所：郡山ビューホテルアネックス 参加者 133名
内 容：
特別講演 「福島で気付いた子どもを育てる環境の重要性」
認定NPO法人 郡山ベップ子育てネットワーク理事長 菊池記念ことば保健医学研究所 所長 菊地信太郎先生
教育講演 「放射線ファーマシストへの取り組み」
福島県薬剤師会 放射線ファーマシスト委員会 宗形明子先生
シンポジウム 「震災から医療・介護のあり方を学ぶ」
コーディネーター 東羽大学薬学部 教授 押尾 茂 先生
『1ビッドパレット 救護所から仮設診療所として帰郷へ』
～他地域からの支援や行政との連携手帳を踏まえて～

①「医師として、避難者とともに経験した」（一社）双葉郡医師会顧問 富岡中央病院院長 井坂 晶先生

②「薬剤師として、避難者を受け入れる立場として」（一社）郡山薬剤師会副会長 山口薬品（株）代表取締役 山口祐一先生

③「これからの医療・介護とまらづくりに薬剤師はどうかかわるか」（一社）福島県薬剤師会副会長 薬局タワロフアーマシー代表長谷川祐一先生

《交流会》 9月17日(日) 18:00～20:00参加者 100名
アトラクション【岩代郡山うねうね太鼓保存会子若組】
小学校1年生から高校生2年生による太鼓の演奏

第15回日本女性薬剤師会全国移動セミナーin福島の第11回東北ブロック大会と共に平成29年9月17日郡山ビューホテルアネックスにて開催されました。タイトル「ほんとうの空は、自らの手で！」～震災から医療・介護のあり方を学ぶ～に込められた熱い想いが伝わりました。

約150名ほどが集まり近隣薬局会長の挨拶からスタートしました。

「地域の中何を訴えるかをタイトルの中に込められている。その中で女性力を大げんにした。今年、6月24日、日女は50年の節目を迎えた。50歳というのは人生の中で最後のなる。先達の偉業を前向きに考える。福島県女性薬剤師会は果敢とたいへん上手に繋がっている。今日はご来賓の方々がたくさんで驚いた。今後とも宜しくお願いします。」

～福島県女性薬剤師会会長兼法科大学院の挨拶～ 「福島の今と未来で感じていただきたい。福島県女性薬剤師会の後援をいただき感謝と感謝している。」と、本日の講演者のお名前を紹介しました。

ご来賓の挨拶では「品川真由山田市長からは「風向きで放射線が飛ぶ。原子力から100km離れても危ない。子どもの健康に目を向けていきたい。健やかに育てて欲しい。またまご細やかな介護を必要とする人々のために力を貸してほしい」とありました。次に町野神福嶋県薬剤師会会長は野球で右足の靭帯を切ったため松葉づえを使っての登場「失われたコミュニティをどう進めるか?町に不可欠な薬局がコミュニティの役を担うこと。原発被害を払拭するために放射線ファーマシストを養成している」と話された。

その後祝電をいただきました。特別講演は認定NPO 法人郡山ベップ子育てネットワーク理事長、菊池記念ことば保健医学研究所所長、菊地信太郎先生による「福島で気付いた子どもを育てる環境の重要性」では子ども中心の街割りに関してご自身の取り組みを話されました。

「小児科医としての提案はとて優しい視点であり印象的でした！子どもを育てる原点は遊びから、と「ベップ薬局」こおりまきさん(東北最大の屋内遊び場)を作り上げました。

冬でも遊べる素晴らしい子どもの居場所が創られました。癒されたのは周りの大人、高齢者でした。教育講演は福島県薬剤師会常務理事、放射線ファーマシスト委員長、宗形明子先生。旅館を経営しながら、薬剤師の仕事もしているしっとりとした雰囲気のある女性です。震災の時は被災者の方々にたくさん受け入れたそうです。その講演の内容はハードで放射線ファーマシストになるための並々ならぬ決意と行動を知りました。今は後継者として「ほんとうの空は、自らの手で！」～震災から医療・介護のあり方を学ぶ～をテーマに講演を行いました。次回は会津を巡るバスツアーに参加しました。台風過ぎ、磐梯山の姿も見るこたけで、私としては20年振りの機会を松松を楽しみました。特二野口英世館では改めて世界の野口を知る機会となりました。お土産を一軒買物して帰路につきました。

埼玉県女性薬剤師会 会長 渡邊美知子

第15回日本女性薬剤師会移動セミナーin福島(研修後記)



『ほんとうの空は、自らの手で！』～震災から医療・介護のあり方を学ぶ～をサブテーマとして実施しました。東日本大震災から半年すぎても風評被害が続いており、福島県に本当に来ていただけるのだろうかという不安の中、県外から7名、県内から4名の133名に参加いただきました。特別講師の菊地信太郎先生の「福島で気付いた子どもを育てる環境の重要性について」そして教育講演の宗形明子先生の「放射線ファーマシストへの取り組み」については、アンケート結果から、はじめて知り付けられたという意見が多数でした。放射線ファーマシストについては、是非、自分の地域でも研修会を実施し学びたいという声も聞かれました。シンポジウムは、実際に体験した生の声を聴くことにより、福島現状を知るきっかけとなり生かしてきたいという意見もありました。それぞれシンポジウムの思いが強く内容が多く知り聞かなくなりなりました。思ったことは残念でしたが、内容についてはほとんどの方が満足したとの結果でした。震災から学んだ多くの課題から、今後私たち薬剤師が、どのように考え進んでいくべきかをそれぞれから聞きつけた充実したセミナーであったと実感しています。これからイベントを重ねてお祝いしながら、参加いただきました皆様方へ心から感謝申し上げます。

福島県女性薬剤師会 会長 志賀枝利子

